

清心女子高等学校 第2学年 国語科学習指導案

期 日：令和7年12月17日

時 間：第6校時

対 象：第2学年B組23名

学校名：清心女子高等学校

授業者：太田 菜津子

1 単元（題材）名

「追憶」の表現を知る－『土佐日記』『羽根』の読解を通して－

2 単元（題材）の目標

- (1) 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。〔知識及び技能〕(1)イ
- (2) 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。
〔知識及び技能〕(1)エ
- (3) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。〔読むこと〕(1)カ

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日記文学としての「土佐日記」の特徴を知る。((1)イ)	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、自身の感覚と結びつけながら内容を解釈している。((1)カ)	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
②日記文学の特徴を踏まえ、書き手の考えや心情を捉えて内容を解釈している。((1)イ)		
③作品中の和歌について、特徴的な表現の技法とその効果について理解している。((1)エ)		

4 指導観

(1)単元（題材）観

国語科という教科の中で、指導者が目指すのは「自立した読み手」の育成である。ここで指す「自立した読み手」とは、対象であるテキストの読解を通して引き出された思考を意識化し、メタ認知することのできる読み手である。つまり、テキストの内容を受動的に読むだけでなく、その内容に対して批判的な立場をとったり、自身が考えたこと、感じたことの原因を考察したりと、自身に問いかけながらテキストと向き合うことが必要になる。

今回、『土佐日記』『羽根』の読解を通して、生徒たちはまず日記文学の特徴にふれることになる。井波¹は、日記文学について以下のように述べている。

日記文学とは平安時代に成立した文学ジャンルで、特定の限られた体験にもとづいて、その人生を再構成し、その内面像を改めて表出した一群の文学作品をさし、時に虚構も加えられる。それは事実を基盤としつつもそれに盲目的に追従せず、その奥に人生の真実を追究するところに本質がある。日記文学は日次記ではなく、回想録風に、しかも過去の人生と現在の心境との緊密な関係を通して、内観的・主体的な独自の世界がつけられている。

¹ 井波真弓他「『土佐日記』の記録性と文学性」（2005年8月、「可視化情報学会誌」28-1巻1号）

生徒たちは『土佐日記』を読み進める中で、日記文学の文学性に気付くことになる。その文学性が女性仮託という形式とも関連していること、さらに、今回のテーマである亡児追憶の表現がいかにかに文学的であるかということを感じることができるだろう。

日記文学としての特性を学び、その表現を読み取ることで、自身が何を感じ、考えたのか。その思考を意識化し、メタ認知させるために、今回扱う『土佐日記』「羽根」は有効な題材であるとする。

(2)教材観

作者の紀貫之（868頃～945頃）は30歳代で『古今和歌集』の撰者に選ばれ、編纂を主導した。930年、土佐守に任ぜられた。934年に任期を終え、同年12月21日に国庁を出て帰京の途につき、翌年2月16日に京の自宅に帰りつくまでの旅を『土佐日記』に記した。

今回扱う「羽根」は、夜明け前に船を漕ぎ出して、室津(高知県室戸市室津)へ向かう途中、羽根(高知県室戸市羽根)での出来事を描いた場面である。ある幼子が羽根という地名を聞いて「羽根という所は、鳥の羽のような所かな」と言い、それを聞いた女の子が和歌を詠む。その子供たちのやりとりから、子を亡くした母親の悲しみが募るという展開になっている。

紀貫之は平仮名の発生に伴い女性の間を広まってきた和文に早くから強い関心を示したと考えられる。本来、男性によって記される漢文の日記は政務・行事・儀式などに関する記録が主であった。しかし、『土佐日記』は和文や和歌を用いた女性の日記の体裁で書かれている。このことにより、和歌を中心に、作者の心情が細やかに描写された文章になっている。

(3)生徒観

特別進学コース・文理総合系の女子生徒23名のクラスである。日頃の授業から基礎・基本の徹底を目指し、文法事項の確認と現代語訳を中心とした授業を行っている。その中でも、作品の歴史的・文化的背景に関心をもつ生徒は多く、古典の世界を楽しもうとする姿勢が見られる。今回の『土佐日記』の読解を通して、日記文学としての特徴を捉え、作品に表れている書き手の心情に迫ることができることから、生徒たちが興味をもって取り組むことが期待できる。しかし、自身の考えを言語化することに苦手意識があり、他者と意見を共有し、深めていくことに課題がある。

今回扱う『土佐日記』は、高校1年生の「言語文化」ですでに履修している。「言語文化」では冒頭の文章と、『土佐日記』が女性仮託して書かれたものであること、さらにその効果を学習している。

5 年間指導計画における位置付け

以下の表のように、基礎・基本の徹底を目指し、文法事項の確認や現代語訳を中心とした指導を行っている。その上で、文化的背景にふれ、より内容を深く読解することで、古典の世界に親しむ機会をつくっている。

	単元名	主な内容
1学期	〔古文〕 ・『宇治拾遺物語』 「検非違使忠明のこと」 ・『十訓抄』 「大江山いくのの道」 ・『徒然草』 「家居のつきづきしく」 ・『枕草子』 「すさまじきもの」「宮に初めて参りたるころ」「中納言参りたまひて」 〔漢文〕 ・「知音」 ・「画竜点睛」 ・「糟糠之妻」 ・「塞翁馬」	〔古文〕 ・主に助動詞の用法に注意し、現代語訳する。 ・当時の文化的背景について知り、内容理解にいかす。 〔漢文〕 ・基本的な句法について理解する。 ・当時の文化的背景について知り、内容理解にいかす。

	単元名	主な内容
2学期	〔古文〕 ・『伊勢物語』 「初冠」 ・『源氏物語』 「光源氏の誕生」 「藤壺の入内」 「若紫との出会い」 ・『更級日記』 「門出」 「源氏の五十余巻」 ・『土佐日記』 「羽根」 〔漢文〕 ・漢詩 ・『史記』 「鴻門の会」	〔古文〕 ・主に敬語の用法に注意し、現代語訳する。 ・当時の文化的背景について知り、内容理解にいかす。 〔漢文〕 ・基本的な句法について理解する。 ・歴史的背景について理解する。 ・当時の文化的背景について知り、内容理解にいかす。
3学期	〔古文〕 ・『大鏡』 ・『平家物語』 ・和歌 〔漢文〕 ・『史記』 ・『桃花源記』	〔古文〕 ・主に敬語の用法に注意し、現代語訳する。 ・独特の文章表現を楽しむ。 ・歴史的背景について知り、内容理解にいかす。 〔漢文〕 ・基本的な句形を理解し、内容理解を深める。

6 単元（題材）の指導計画と評価計画（全3時間扱い）

時	★目標 ○学習内容 ・学習活動	■評価規準（評価方法）
第1時	<p>★全体の構成をとらえ、日記文学の特徴や文法事項を確認しながら現代語訳する。</p> <p>★作品中の和歌について、特徴的な表現の技法とその効果について理解している。</p> <p>○本文を通読し、それぞれの内容を簡潔にまとめる。 ・登場人物の関係性や出来事などを大まかにとらえる。</p> <p>○語句や文法事項などに注意し、現代語訳する。</p>	<p>■本文全体の内容をひと通りまとめることができる。〔知技〕②〔ワークシート〕</p> <p>■語句や文語のきまり、古典特有の表現について確認し、理解している。〔知技〕②〔ワークシート〕</p> <p>■和歌の表現技法やその効果について理解している。〔知技〕③〔ワークシート〕</p>
	<p>・ワークシートを使って、現代語訳する。</p> <p>・語句の意味や文法事項を詳しく確認する。</p> <p>○和歌の表現技法とその効果について確認する。</p>	
第3時（本時）	<p>★本文から読み取れる亡児追憶の表現を確認する。</p> <p>★本文に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、自身の感覚と結びつけながら内容を解釈する。</p> <p>○本文から読み取れる亡児追憶の表現を確認する。 ・和歌を中心に再度現代語訳を確認する。</p> <p>○亡児追憶がテーマとなっている和泉式部の和歌、小林一茶の俳句を読み味わい、『土佐日記』 「羽根」 に描かれた亡児への思いを鑑賞する。 ・ペアで話し合いながら、自身の考えを深める。 ・自身の考えを文章でまとめる。</p>	<p>■本文内容や和歌の表現技法についてまとめることができる。〔知技〕②③〔ワークシート〕</p> <p>■作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、想像力を働かせながら内容を解釈できる〔思判表〕〔ワークシート〕</p>

7 指導に当たって

- (1)ラテラルシンキング：作品から感じられる亡児追憶の表現について感じたこと、考えたことを自由に発表する。また同時に、自身が体験したことのない出来事について、想像力を働かせて考え、思いを巡らせる。
- (2)クリティカルシンキング：作品の亡児追憶の表現から自分が得た感覚と、自身が想像した感覚を比較する。
- (3)ロジカルシンキング：他の和歌や俳句を読み味わう中で亡児追憶の表現について深め、自身の想像していた感覚を根拠をもって説明できるようにする。また、『土佐日記』「羽根」に表れた亡児追憶の描写について、本文や和歌に根拠をもとめ、論理的に考察する。

上記のように、ラテラル・ロジカル・クリティカルといった複数の視点で物語を考察することが、『土佐日記』「羽根」に表れた作者の思いを理解することにつながるのではないかと考えている。

8 本時（全3時間中の1時間目）

(1)本時の目標

- ・本文から読み取れる亡児追憶の表現を確認する。
- ・本文に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、想像力を働かせながら内容を解釈する。

(2)本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準（評価方法）
導入 (8分)	○『土佐日記』「羽根」の内容を確認する。(3分) ○和歌の内容を確認する。(4分) ○本時のめあてと学習活動を確認する。(1分)	・本時まで使用したワークシートで確認させる。	■本文の内容を読み取り、整理している。〔知技〕〔ワークシート〕 ■和歌の内容を整理し、まとめている。〔知技〕〔ワークシート〕
	<p>本時の学習内容</p> <p>本文から読み取れる亡児追憶の表現から、作者のものの見方、感じ方、考え方を捉え、想像力を働かせて読み味わおう。</p>		
展開 (22分)	○亡児追憶が読み取れる箇所を抜き出す。 ・まずは個人で考え、ペアで共有する。(7分) ・全体で共有する。(8分)	・和歌だけでなく、地の文から読み取れる部分も探すよう伝える。 ・個人で考えさせたあと、ペアで共有させる。 ・ペアで確認した内容をクラス全体で発表させる。	■本文から亡児追憶が読み取れる箇所を抜き出している。〔知技〕〔ワークシート〕 ■他者に自身の考えを伝え、深めることができる。〔観察〕
	○和泉式部の和歌、小林一茶の俳句の内容を確認する。 ・語句の意味や文法事項に注意しながら内容を確認する。(7分)	・和歌、俳句の内容を文法事項に注意しながら現代語訳させる。	■和歌の表現技法やその効果について理解している。〔知技〕〔ワークシート〕

<p>まとめ (15分)</p>	<p>○和泉式部の和歌、小林一茶の俳句を読み味わった上で、『土佐日記』「羽根」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身が体験したことのない「亡児追憶」という感覚をどのように読み取れるか考える。(5分) ・個人で考えたあと、ペアで共有する。(5分) ・クラス全体で共有する。(5分) 	<p>・和歌や俳句など、古典文学によって、自身が体験したことのない感覚をどのように追体験できるかを考えさせる。</p>	<p>■作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、想像力を働かせながら内容を解釈する。〔思判表〕〔ワークシート〕 〔観察〕</p>
----------------------	--	---	---

参考文献

- ・井波真弓他「『土佐日記』の記録性と文学性」(2005年8月、「可視化情報学会誌」28-1巻1号)
- ・水谷隆「土佐日記の女性仮託という方法が意味するもの：その文学史的な位置づけの再考に向けて」(2016年3月、「文学史研究」56、pp.68-79)
- ・鈴木宏子「『土佐日記』を読み直す」(2020年3月、千葉大学教育学部研究紀要68、pp.424-420)